

第4回Zoom子どもの学びを創る会

2020.9.19

**withコロナ**の中での教育課程

～「教科等横断的な視点」を考える～



長門市立油谷小学校

教諭 芝田 秀樹

(子どもの学びを創る会/日本授業UD学会中国支部代表)



## 新学習指導要領の完全実施キーワード

○資質・能力の育成

○教科等横断的な視点からの教育課程の編成

○カリキュラム・マネジメント

○主体的・対話的で深い学び

どんな社会の変化にも対応できる子どもの育成

- ・ 予測困難な時代に変化を前向きに受け止める。
- ・ 自らの人生を切り拓く力の育成

Withコロナ・Postコロナであっても  
積極的に実践し、成果と課題を共有したい。

# なぜ「教科等横断的な視点」なのか

教科	観 点	学 年
国語	国語への関心・意欲・態度 話す・聞く能力 読解力 書写能力	1-6
社会	社会的な思考・判断・表現 社会的な関心・意欲・態度 観察・資料活用 社会生活についての知識・理解・技能	1-6
算数	数学的な考え方 数量や図形に関する関心・意欲・態度 生活や学習に活用する能力	1-6
理科	科学的な思考・表現 観察・実験の技能 自然事象についての知識・理解 身のまわりの現象についての思考・判断	1-6
音楽	音楽への関心・意欲・態度 音楽表現の創意工夫 音楽表現の技能 鑑賞の能力	1-6
美術	創造的な技能 鑑賞の能力	1-6
家庭科	家庭生活についての知識・理解 生活技能	1-6
体育	健康・安全についての知識・理解	1-6

10年前、各教科でこの資質・能力を繰り返し実践・評価を繰り返してきてきた。

なのに、これではこれからの時代に通用しないのではと、否定された感じをもつ。

これからの10年、3つの資質・能力を目指し、教科等横断的な視点からカリキュラム・マネジメントを重視してよいか

学習指導要領は、強い社会からの要請で改訂されることが多く、ある意味、流行書。

これまで、主にそれぞれの教科で力の育成

これでは、これからの時代に必要な能力が育たないのでは。

全ての教科等が3つの資質・能力に整理

「何ができるようになるか」を教科等全体で実現する。

教科等横断的な視点が必要

# 総則における「教科等横断的な視点」の表記

## 「教科等横断的な視点」に表記箇所 15カ所

- 「教科等横断的な学習を充実する
- 教科等横断的な視点で組み立てていく（4）
- 教科等横断的な視点をもちつつ
- 教科等横断的な視点で教育課程を編成・実施できるように
- 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成
- 教科等横断的な視点で教育の内容を編成する
- 教科等横断的な視点で育成を目指す資質・能力を明確に
- 教科等横断的な視点に立って育成
- 教科等横断的な視点をもってねらいを具体化
- 教科等横断的な視点からの指導のねらいの具体化

# 「教科等横断的な視点」で何をするのか

総則の表記から、考えると

教科等横断的な視点に立って

育成を目指す資質・能力を明確にし、  
(指導のねらいの具体化)

教育課程を編成・実施できるようにする  
(教育の内容の編成)

コンテンツでつなぐのではなく、  
**コンピテンシー**で貫く

# 教科等横断的な視点に立って育成する資質・能力

1 児童の発達の段階を考慮し，言語能力，情報活用能力（情報モラルを含む。） ， 問題発見・解決能力等の**学習の基盤となる資質・能力の育成**

各教科等の特質を生かし，教科等横断的な視点から教育課程の編成を図る。

2 豊かな人生の実現や災害等乗り越えて次代の社会を形成することに向けた**現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力**

教科等横断的な視点で育成していくことができるよう，各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。

学習指導要領総則（第1章第2の2）から

汎用的な資質・能力の育成のため

**計画的かつ継続的な取り組みが重要で必要**

# 「教科等横断的な視点」とは

新学習指導要領では、具体的な定義はない。

各教科等で育成された資質・能力

他の教科等の中で活用・発揮

例) 国語科で身に付けた知識・技能が、社会科で活用・発揮

例) 算数科で身に付けた統計の知識・技能が、理科で活用・発揮

教科等全体の中で質高く育成される

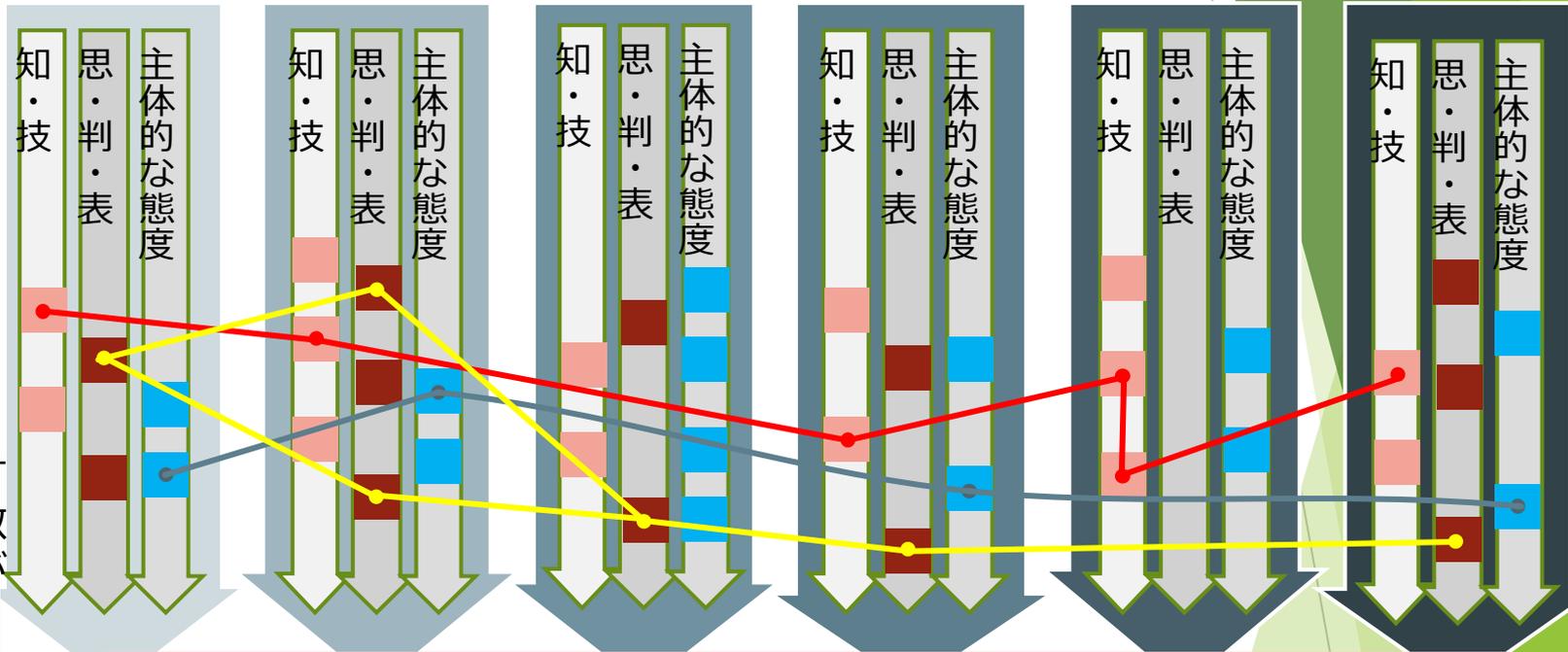
「資質・能力」：各教科等を横断するかたちで育成

思考・判断・表現力等は、教科固有のものというより、各教科等を横断したかたちで実現できるもの。

社会の要請：現実社会で活用・発揮できる力

# 「教科等横断的」のイメージ

## 各教科等



学年や単元で身に付けた資質・能力

※線は、目指す子ども像から教科等間のつながりを表す

※学期に2～3が現実的  
※自校のカリキュラム化

総合的な学習の時間

3つの柱で整理された目指す子ども像（短期的）

自校が注力したいものに焦点化

全校で同じ方向での取組み

学校の教育目標（長期的）

# 教科の関連内容から目指す資質・能力を育成する

※コンテンツの関連のみにならないこと

## 各校の3つの柱で整理された目指す子ども像

(つながりは目指す子ども像から絞り込む)



主教科を中心とした資質・能力の育成



両教科につながる資質・能力

汎用性の高い資質・能力



各教科等の学びの過程で身に付けた考えるための技法を活用

総合の時間での経験を教科等に還元する往還的な関係

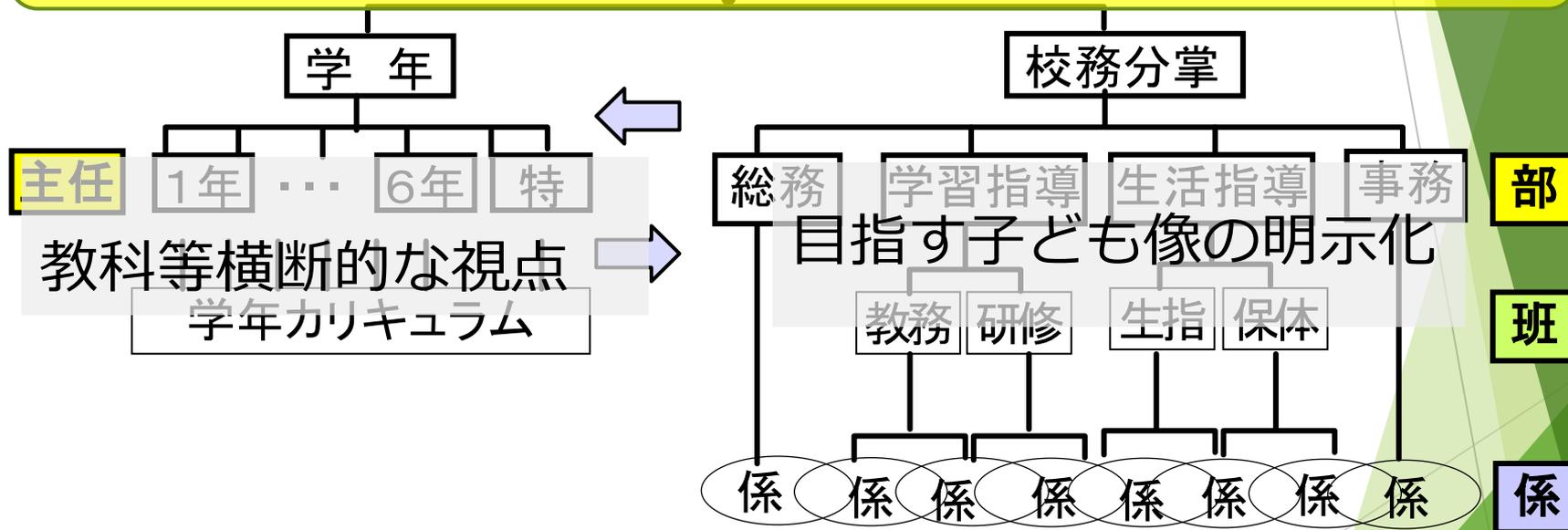
# 学校の教育目標と教科等横断的な指導の評価

## 学校の教育目標

各教科や総合  
的学習の時間  
の達成状況

各分掌部から

資質・能力でカリキュラムをどのようにデザインしていくか  
(各学年担任・分掌部員による省察・自己評価)



- 学校生活全ての教育活動は、自校の教育目標の達成のためにある。
- 実践グループである学年部や分掌部は、マネジメント力とともに、3つの柱で整理された目指す子ども像を重視する。